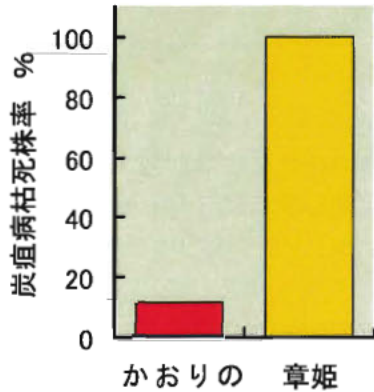


イチゴ新品種「かおりの」がデビューしました

利用対象：イチゴ生産農家

炭疽病被害を軽減



過酷条件での炭疽病枯死株率
「かおりの」は炭疽病に強く、被害の発生を軽減できます。

炭疽病被害の状況：炭疽病が発生すると、育苗時に急速に蔓延して枯死する。全滅するときもあります（左）。丹誠込めて育てたイチゴが収穫間近になって枯死することも（右）。大きな経営的ダメージに。

極早生・多収



10月中旬に開花



大振りな株で連続収穫

果実の特徴

- ★ 爽やかな甘さ
- ★ 上品な香り
- ★ 酸味が少ない
- ★ ジューシー



1. 背景とこれまでの課題

イチゴでは、全国の生産者の切磋琢磨によって、激しい競争にもまれた優れた商品が供給されています。その中で、品種による差別化は重要な役割を果たしており、三重県でも、産地間競争を勝ち抜くため、「宝交早生」、「女峰」から「章姫」へと主要品種を変遷させてきました。この傾向は今後も継続すると考えられることから、未来に向けた品種戦略のため、三重県オリジナルのブランド品種が求められていました。この要望に応えるため、三重県農業研究所は、生産者が作りやすい病害抵抗性、早生・多収性と消費者に支持される美味しく高い果実品質とを併せ持つ新品種「かおりの」を開発しました。

2. 成果の概要

- (1) イチゴ栽培において「炭疽病」は、全国的に重大な病害ですが、この病気は、高温多湿条件で伝染するため、夏に雨の多い三重県では特に対策が重要になっています。しかし、「かおりの」は、炭疽病に強いことから、被害を軽減することができます。
- (2) 三重県のイチゴ生産は、ポット育苗促成栽培が大半で早期出荷を特徴としています。「かおりの」は、この栽培技術に適応し、11月中旬から収穫可能な「極早生性」を持っています。
- (3) 「かおりの」は、低温でも大きな株に成長し伸張性が良いため、暖房温度を下げた省エネ栽培が可能です。
- (4) 「かおりの」の食味は、爽やかな甘さと上品な香りを特徴とし、消費者から高い評価を得ています。
- (5) 反面、萎黄病や灰色かび病に弱く、果梗が折れやすいなどの欠点もあります。これらの欠点を克服するため、対策をまとめた栽培資料を作成しました。また、高品質の「かおりの」が生産できるように、「かおりの」に合った栽培技術の研究も継続しています。

3. 成果の慣行技術への適合性と経済効果

- (1) 「かおりの」を、三重イチゴを象徴する品種に育てることを目指しています。「かおりの」を旗印に、三重イチゴ全体の評価が高まるよう、これからも、関係者が協力し、安心して新鮮な美味しいイチゴ生産に努めてまいります。
- (2) 「炭疽病」は、三重県だけでなく、全国的な問題です。このため、「炭疽病」に対して抵抗性がある「かおりの」は、全国に広がっています。その人達にも「かおりの」を作ってもらえれば、三重県のみでは時間が掛かる「かおりの」の知名度を向上させる効果をもたらし、相互に利益を得ることができます。

4. 普及上の留意点

- (1) 「かおりの」を栽培するには、三重いちごブランド化推進協議会に所属し共同出荷するか、または、個人で許諾を取る必要があります。
- (2) 新しく栽培を始める場合、最寄りの普及センターやJAにご相談ください。

お問い合わせ先	農業研究所 園芸研究課 森・小堀 中央農業改良普及センター 清水・金森	電話 0598-42-6358 電話 0598-42-6323
参考になる資料	品種登録第 19529 号	
研究実施予算	県予算（植物遺伝資源の収集保存と特産園芸品種の開発）	